

実施クラス	実施日	実施保育者名
3.4.5 歳児 ほし・にじ・そら 組	6 月 18 日 (水)	松橋

● 実施計画

活動テーマ		環境設定 ・ 準備物
サイエンス～光～ 光や影の色の不思議を味わおう		
活動テーマに関する 日頃の興味関心について		
西日が差して室内に出来る影や、日差しに興味を持っている。 また、うつした影が隠れて見えなくなると、位置をずらし試行錯誤する姿が見られる。 絵の具では混色遊びに興味を示している。		
活動スケジュール		環境設定 ・ 準備物
時間	内容	
17:00	<ul style="list-style-type: none"> ・影にうつるように保育者が動き、影への興味を促す。 ・「光にいろってうつるのかな？」等影の色へ興味を持てるよう声掛けをする。 ・カラーセロファンを用意してどのように使ったらいいか子ども達と話し合う。 ・影に色が付くことを確認した上で複数のカラーセロファンを貼り付けた懐中電灯で影遊びを行う。(赤・緑・青) ・「光の色を混ぜたらどうなるのかな？」と問いかける。 ・子どもと一緒に色を混ぜて完成する色を予想し、ホワイトボードに記入する。 ・実際にやってみてどうなるか試してみる。 ・子ども同士で会話をしながら試行錯誤することを楽しむ。 	<p>[環境設定]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日当たりのいい時間に行く。 ・影の変化を観察しやすいよう部屋を暗くして行う。 ・暗転した保育室でも瞬時に対応できるよう」、避難経路の確認・備品の準備をしておく。 ・懐中電灯とカラーセロファンを十分用意し、子ども達が実験しやすいスペースを確保する。 ・窓にもカラーセロファンを貼れるように用意しておく。 <p>[準備物]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・懐中電灯3本 ・セロハンテープ ・カラーセロファン

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
<ul style="list-style-type: none"> ・製作したカラーセロファンを貼り付けた透明なカップを懐中電灯を用いて照らし、光に色を付ける遊びを行った。 ・色が濃くうつる場所と照らし方の角度を調整しながら試行錯誤していた。 ・室内の天井や棚の中、段ボールや新聞紙等様々な場所へ光を当てた。 ・カラーセロファンを貼り付けた懐中電灯複数を一方向に向けて照らし様々な色の重なりによる色の変化を楽しんでいた。 	<p><活動中の子どもの姿、声></p> <ul style="list-style-type: none"> ・カラーセロファンと透明なカップで風鈴製作をしている際、日差しが入りその光を利用してカップに光を当て色の変化を楽しむ姿が見られた。すると「部屋を暗くしてライトで照らしてみようよ」とプラネタリウムを経験したそら組の子どもから声が上がった。 ・「紫になった！黄色になった！」と光の色を混ぜた際の色の変化を友達と共有しながら楽しむ姿が見られた。 ・最初は3名ほどで行っていた実験であったが、取り組む姿を見て他児の興味関心も光に向き、大勢で試し楽しむ姿が見られた。 ・後日キャンプごっこを行っている際、懐中電灯を使いたいとの声上がり、様々な場所を照らし、新聞紙の上で複数の色を照らすと虹のようにきれいに映ることを発見し喜んでいました。 <p><保育者の関わり></p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの興味に合わせ環境設定をした。 ・「どこだと一番色が分かりやすいかな？」「この色を混ぜたら何色になるかな？」「絵の具だと何色になったかな？」と子どもの経験に基づいて思考や想像がしやすいよう声を掛け子ども同士で話しながら発見する喜びを味わえるよう関わった。

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちはカップに光を当てる角度によって貼ったカラーセロファンのどの色がうつるか試すことを楽しんでいました。 ・プラネタリウムの経験により、暗い場所の方が光が強くなることを理解している様子が見られた。 ・やってみたい気持ちに即座に対応することで気分が乗った状態で取り組むことができ、より意欲的に試行錯誤する姿が多く見られる事を実感した。 	<p>園長からの感想・助言内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年長児のプラネタリウム体験が別な活動での気づきの種になり、他児のひらめきに繋がることや、光と色の面白さや不思議さなどを感じる活動だったと思います。 ・先生方の環境作りや子ども観察、声の拾い方も子どもたちのワクワクする温度を捉え、もっと好奇心や関心が広がるための関りや声掛けがあり、安心間の中で活動に取り組めていたように思います。 ・子どもたちの気持ちの「今」を逃さず活動につなげる事の大切さと難しさもありますが、意欲が高まる関りをどう工夫し大事にしていくか、今後も一緒に考えながら進めていきましょう。

実施クラス	実施日	実施保育者名
3・4・5 歳児 ほし・にじ・そら 組	8 月 4 日 (月)	松橋

● 実施計画

活動テーマ		
野菜について調べよう・スケッチしよう		
活動テーマに関する 日頃の興味関心について		
野菜を育てている事から野菜へ興味を持つ姿が見られる。また、先日八百屋へ行った為より興味関心が深まっている。		
活動スケジュール		環境設定 ・ 準備物
時間	内容	
9:45	<ul style="list-style-type: none"> ・先日八百屋で買ってきた野菜について振り返る ・虫眼鏡や画用紙があることや、スケッチできることを伝える ・虫眼鏡の使用上の注意について子ども達と一緒に確認する。 ・テーブルごとに様々な野菜を置き、好きな野菜が置いてある場所に座るよう伝える。 ・子ども達は自分が買った野菜があるテーブルや気になる野菜がある場所に座る。 ・野菜の外観を楽しんだり、断面を楽しむ姿がある。 ・各々好きなものをスケッチする。 	<p>○環境設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーブル3台用意し、テーブルごとに違う野菜と虫眼鏡を二つずつ置く。 <p>○配慮</p> <ul style="list-style-type: none"> ・包丁やピーラーを使う際には子どもの手の届かない場所で行う。 ・最初から切るのではなく子どもの興味に合わせて切り方や切るタイミングを合わせて行う。 ・十分な数の野菜を用意し、じっくり好きなものを観察できるようにする。 ・虫眼鏡の使用方法について事前に子どもと一緒に確認しておく。 <p>○準備物</p> <ul style="list-style-type: none"> ・野菜(トマト・きゅうり・なす・赤玉葱・モロヘイヤ・かぼちゃ・にんにく・れんこん・えのき・枝豆・にんじん) ・牛乳パック ・包丁 ・ピーラー ・布巾

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
<p>八百屋で購入した野菜を用いて観察、スケッチを行った。 最初は野菜の外観を観察する姿が見られたがピーラーや包丁があることを伝えると中を観察したいとの事で切って中身を観察し、スケッチした。</p>	<p>野菜を見てすぐにスケッチを始める子、じっくり観察を楽しむ子、中身を気にする子の姿が見られた。 野菜の中身を見たいとの声が上がった際、どの様に切るか保育者から尋ねることで様々な角度で切った野菜が完成し、様々な角度から観察し発見を楽しむ姿が見られた。 れんこんの穴を覗いた際、穴の奥の暗がりが見える様に見えるようで、小さく切って中身を確認する姿が見られた。 保育者は子ども達の興味に寄り添った手助けをするよう関わった。 種の大きさや野菜に生えている毛に気付く姿が見られた。</p>

振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
<p>・野菜の切り方を尋ねてみると、意外な角度を伝えられ、子どもの視点で気になるものは大人が想像しているものと相違点があるのだと感じた。 ・野菜の数を多く用意していたことでのびのびとじっくり観察やスケッチをする姿に繋がっていた。</p>	<p>・同じ野菜でも、同じ活動でも、子ども達は個々に異なる方法で観察し、関心を広げています。それぞれが感じる野菜の発見事を受け止めていく活動になったと感じました。観察方法やスケッチの仕方に正解を求めず、個々の表現したいように、見たままに感じたままに自分なりの観察スケッチが行えることで、気づきの幅も表現の自由も広がると思います。大人と子供の視点の違いも面白いですね。一緒に楽しんで、気づきを共有できると、子ども達同士、職員との違いにも面白みを感じる子がいるかもしれませんね。</p>

実施クラス	実施日	実施保育者名
3.4.5 歳児 ほしにじそら 組	8 月 21 日 (木)	松橋

● 実施計画

活動テーマ		
玉葱で布を染めてみよう		
活動テーマに関する 日頃の興味関心について		
野菜スケッチの後色水を作って染紙を行ったことで野菜の皮で色を出すことに興味を持つ姿が見られる。		
活動スケジュール		環境設定 ・ 準備物
時間	内容	
8月19日	<ul style="list-style-type: none"> ・「この間の染紙ではあまり色が出なかったけど、どうしたらもっと野菜の皮から色が濃くなるかな?」と問いかける。 ・分からない場合はお家の人や色々な保育者に聞いて調べてみるよう伝えておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○環境設定 <ul style="list-style-type: none"> ・テーブルを4台出しておく。 ・1台のテーブルに鍋とIHヒーター、ミョウバン液を用意しておく。 ○準備物 <ul style="list-style-type: none"> ・鍋 ・ポウル ・トング ・玉葱の皮を入れた水 ・ガーゼ ・バンダナ布 ・輪ゴム ・割りばし ・洗ったものを干す洗濯ばさみ ○配慮 <ul style="list-style-type: none"> ・鍋の周りに近付かないようやけどに関する注意点を子ども達と一緒に確認しておく。 ・ミョウバン液や煮汁に触れたら口入れたり目をこすったりしないことを伝える。
8月21日10:30	<ul style="list-style-type: none"> ・どうしたら濃くなるのか調べてきたことを発表し合う ・煮出す案が出る。 ・鍋に玉葱の皮を入れた水を入れて煮立たせる。(約10分~20分) ・「この間は紙を染めたけど他の物も染められるのかな?」と問いかけ、ガーゼや布があることを伝える。 ・それぞれ好きな布を染めたいとの声上がる。 ・輪ゴムや割りばしを使って布に模様を付けることが出来ることを伝える。 ・子どもの入れたいタイミングに合わせて煮出した液に輪ゴム等付けたガーゼを入れる。 ・30秒ほど液に付けた後魔法のお湯(ミョウバン液)に入れ、自分でトングを使って20秒程漬ける。 ・ミョウバン液から出し、水道で水洗いし、輪ゴムや割りばしを取り干す。 ・出来上がった物を見て模様や入れたタイミングによる色の違いについて友達と会話を楽しむ。 ・活動終了 	
11:30		

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
<p>鍋で煮詰めた玉葱の皮とミョウバン液を使用して染布を行った。 また、染布をする際輪ゴムを使用して模様が付くことを伝え、一緒に好きな模様付けを行った。</p>	<p>玉葱の皮を煮ている鍋の香りへの興味から活動が始まった。 実際に保育者がやって見せると玉葱の鍋に入れた際の色の変化とミョウバン液につけた際の色の変化、2段階の変化に興味を示す姿が見られた。 また、何人か染色を行うと色の濃さに差があることに気付く姿が見られた。 その際なんで濃さが違うのか考えられるよう問いかけると、漬ける時間による影響なのではとの意見が上がり、漬ける時間を調整する姿が見られた。</p>

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
<p>輪ゴムで模様付けを行ったが、3歳児クラスの子どもは難しい様子が見られた。その際気付いた年長児が手助けをする姿が見られた事から、異年齢で行う中でどちらにもいい影響があるのだとあらためて感じた。また、今後行う際は複数の皮の量や煮詰めた時間が異なる鍋を用意することで、さらに探求心が深まるのではと考えた。</p>	<p>・「どうしたら色が濃くなるか」について、調べる時間や発表し合える機会画あり、子ども達の関心の強さもより高まったのではないかと感じる。異年齢で行う中で、それぞれに難しさもあった中、関わりのいい影響も自然に生まれ、活動への探究心だけでなく思いやりや協働する楽しさも味わえたと思う。香りに気付き、色の変化に気付き、液体の感触や染めていく変化を楽しむ活動になり、五感を通してワクワクと関心を広げることの面白さを味わえたと感じます。五感での気付きから体験を変化させていく事で関心をさらに深められる何かが生まれそうですね。</p>

実施クラス	実施日	実施保育者名
3・4・5 歳児 ほし・にじ・そら 組	10 月 27 日 (月)	齋藤

● 実施計画

活動テーマ

アート～色のふしぎ～
色の世界をのぞいてみよう

活動テーマに関する 日頃の興味関心について

身の回りにたくさん色があることに気づいている。『空は青だけじゃなくて白もある』『葉っぱもいろんなみどりがあるね』と発見を広げている。色を比べたり『どっちの赤が好き？』と友だちと話し合ったりしながら、色の多様さや奥深さに関心をもっている。

活動スケジュール

環境設定 ・ 準備物

時間	内容	環境設定 ・ 準備物
16:00～16:40	<ul style="list-style-type: none"> 色の三原色や三属性について振り返り、色の見え方について考える。 「赤のメガネをかけたら、世界はどんな色に見えるかな？」と問いかけ、興味を引き出す。 セロファンを貼った色メガネを作り、色の変化を予想する。 「この色のメガネをかけたら、青いものはどう見えるかな？」と問いかけながら、観察の視点をもたせる。 出来上がった色メガネを使い、グループごとにさまざまな色のものを見て、どのように変わるか観察する。 「黄色の紙は、赤いメガネで見ると何色に見える？」などの問いかけを行う。 	<p>【環境設定】</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもたちが自由に色の違いを試せるよう、十分なスペースを確保し、照明の調整ができる環境を整える。 子どもたちが自由に発言できる雰囲気を作る。 <p>【準備物】</p> <ul style="list-style-type: none"> トイレトペーパーの芯 人数分 セロファン人数分 多色×2 セロハンテープ <p>【事前準備】</p> <ul style="list-style-type: none"> セロファンをトイレトペーパーの芯に貼れる大きさに切っておく。 トイレトペーパーの芯の半分に線を書いておく。
10:25～10:35	<ul style="list-style-type: none"> どの色のメガネでどのような見え方をしたかを共有する。 「思った通りの色だった？違って見えた？」と考えを深める。 色メガネを通した世界の違いについて発表し合う。 「みんなはどのメガネで見るのが楽しかった？」と振り返る。 	
10:35～10:45	<ul style="list-style-type: none"> 色の見え方が変わることを再確認し、色のふしぎを意識づけしていく。 「ほかにも、どんなもので色の見え方が変わるかな？」と問いかけ、さらなる探究につなげる。 	

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
<p>自分で作った色メガネを通して世界を見ることに大きな興味をもち、何度も色を変えて観察していた。</p> <p>「赤のメガネをかけると、青いものはどう見える？」と考えながら、実際に見え方を比べることで、色の変化に気づく場面が多く見られた。</p> <p>また、「思った色と違う！」という驚きとともに、新たな発見を楽しむ様子が見られた。</p>	<p>【子どもの姿・声】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「赤のメガネをかけたら、青いものが黒っぽく見えた！」 ・「黄色の紙がオレンジに見えるのはなんで？」など、それぞれの気づきを発言する姿があった。 <p>【保育者との関わり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「なぜこの色に見えるんだろう？」と問いかけながら、子どもたちが試行錯誤する時間を大切にしました。また、「ほかのメガネと比べたらどうなる？」など、探究につながる声掛けを行った。

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
<ul style="list-style-type: none"> ・色の見え方が変わることに対して、興味を持ち何度も試して確認しようとする姿が見られた。 ・予想した色と実際の色の違いに驚きながらも、「なぜ？どうしてだろう？」と考える姿勢が育まれていた。 ・色の違いだけでなく、色によって感じ方が変わることに気づき、「赤いメガネだと強くなった感じがする！」などの発言が出たことが興味深かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの気付きに対する関わりの中で、保育士側の工夫や子どもたちの気付きから繋がっていった活動なども、気づきに記入できると良いですね。 ・子どもの気づきは色の違いだけだったのか、興味をもち何度も試す中での工夫やアプローチの様子での気づきはどんな事だったのか、具体的に記入しましょう。

実施クラス	実施日	実施保育者名
3・4・5 歳児 ほし、にじ、そら 組	2 月 12 日 (木)	齋藤

● 実施計画

活動テーマ		
おかね ～おかねの使い方を考えよう～ おしごとをしてみよう		
活動テーマに関する 日頃の興味関心について		
<p>前回の活動の振り返りで、「どうすればお金は得られるのか」という問いが生まれ、その方法(働くこと、対価を得ること)に関心が高まっている。</p> <p>日常生活の中で、家族が仕事に出かけ、そこでお金を得ている様子などから、「働くこと」と「お金を得ること」の関係性に興味を持ち始めている。</p>		
活動スケジュール	環境設定 ・ 準備物	
時間	内容	
10:00～10:10	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の活動を振り返り、お金の量には限りがあること、どうすればお金がたくさん手に入るかを再確認する。 ・お金を得る方法について考え、意見をまとめる。 	<p>【環境設定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが自由に発言できる雰囲気を作り、一人ひとりの意見を尊重し、受け止める。 ・正解・不正解を明らかにするのではなく、多様な捉え方や考える姿勢・態度を大切ににする。
10:10～10:30	<ul style="list-style-type: none"> ・お金は「働くこと」や「何かをすること」で得られることを伝え、疑似体験につなげる。 ・おしごとカードを提示して、内容を伝える。(例:おもちゃの整理、掃除など) ・やりたいおしごとを選び、対価(模擬貨幣)を確認する。 ・おしごとを実践し、対価として模擬貨幣を受け取る。 	<p>【活動使用教材】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・模擬貨幣(ポーカーチップ) ・おしごとカード(写真・イラスト) ・ホワイトボード ・ホワイトボードマーカー <p>【事前準備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが取り組みやすい「おしごと」(例:おもちゃの整理、掃除など)の具体的な内容を提示したおしごとカードを作成する。 ・おしごとの内容によって、対価(模擬貨幣)に差をつけておく(例:難しいおしごとは対価を多くする)。
10:30～10:40	<ul style="list-style-type: none"> ・おしごとの体験で得た気づきや大変だったこと、お金を受け取った時の気持ちを発表する。 ・お金は「誰かの役に立つこと」や「価値のあること」の対価として得られることの理解につなげる。 ・集めた模擬通貨の枚数を数え、記録する。 ・目標に向かってお金を貯める「貯金」という方法があることを期待感を持たせて伝える。 	

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
<p>前回の活動の振り返りを行う。どうすればお金が手に入るのか意見を出し合い、仕事をするとお金を得られるという方法について考える。</p> <p>園内でできる仕事はどんな仕事があるか、候補を出し合う。お仕事カードを作成し、玩具の整理や掃除などでもらえる金額を設定する。自分でやりたい仕事を実践し、その対価として模擬紙幣をもらう。</p> <p>仕事体験の中で、得た気付きや大変だったことを話し合う。</p>	<p>【子どもの姿・声】</p> <p>園内でできる仕事の候補の中には、年下の友達の靴を履く手伝いや一緒に手を繋いで散歩に行くことなど友達との関わりの中で得られる仕事の内容が聞こえてきた。また、実際に仕事をしてお金をもらおうと友達と金額を比較し沢山もらえた喜びを感じる姿が見られた。一方、仕事を適当に行う姿も見られたり、保育者が見ていないところで金額を書き換えようとする子どももいた。その中で、仕事の大変さに気付く姿が見られた。</p> <p>【保育者との関わり】</p> <p>子ども達が楽しくお金を貰う方法を体験できるように、保育園の中でできるお仕事を提案することでお仕事に興味を持つ姿に繋がった。実際にお仕事をしていると、丁寧さが段々と薄れていく子どもの姿が見られたので、丁寧に仕事をすることでその分、対価が貰えることを再度話し、お金の価値について確認する姿が見られた。</p>

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
<p>働いたらお金がもらえるという仕組みが子ども達にとって新鮮だったようで楽しく活動することができた。また友達とお金の数を競う様子が見られ、お金を手に入れる為に沢山お仕事をやる姿が見られた。一方、中々働こうとしない子どももあり、子ども達一人ひとりお金の価値観が違うことに気付いた。</p>	<p>仕事とお金の関係や、労働への対価を体験として学んでいた。どんな仕事をしたらいくらもらえるのか、自分はたくさんお金が欲しい、仕事はしたくないなど、子どもたちの素直な気持ちがまた試行錯誤するきっかけとなっていた。他児との思いの共有の中で、解決策を考えたり仕事をしない姿を見ては「お金もらえないよ」と話したりする姿もあり、個々の思いや価値観の違いに職員も気づける時間だったと感じた。</p>

実施クラス	実施日	実施保育者名
3・4・5 歳児 ほし、にじ、そら 組	2 月 13 日 (金)	本郷

● 実施計画

活動テーマ	
おかね ～おかねの使い方を考えよう～ ためるってどういうこと？	
活動テーマに関する 日頃の興味関心について	
物の対価として、お金を渡したり受け取ったりすることでやりとりが成立することを知る姿が見られる。「なんでこんなにお金がなくなるのか」、「お金少しだけしか渡していないのに変えちゃった」など物の価値の違いに気付く声が聞かれる。	
活動スケジュール	環境設定 ・ 準備物
時間	内容
10:00～10:10	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の活動を振り返り、働くことでお金を得たことを再確認し、お金を何に使いたいか考える。
10:10～10:30	<ul style="list-style-type: none"> ・もらったお金(模擬通貨)を持ち運べたり、貯めたりできるように財布を製作する。 ・前回得たお金の使い方を考える。 ・景品(自由画帳と折り紙)の説明をする。 ・お金を使うか貯めるかを決める。 ・使うことを選んだ子どもは、自由画帳と交換する。 ・貯めることを選んだ子どもは、おしごとをする。おしごとが完了したら、模擬通貨を手渡す。 ・貯めることを選んだ子ども自由画帳や折り紙と交換する。
10:30～10:40	<ul style="list-style-type: none"> ・お金を貯めたことや使ったことについて、難しかった点や、どのような基準で決めたかを発表する。 ・お金を使う目的は様々であり、計画的に使うことの大切さを伝える。 ・「価格の差」や「賢い買い方」について、次回詳しく調べることを伝える。
	<p>【環境設定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが自由に発言できる雰囲気を作り、一人ひとりの意見を尊重し、受け止める。 ・正解・不正解を明らかにするのではなく、多様な捉え方や考える姿勢・態度を大切にしている。 <p>【活動使用教材】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・模擬通貨(ポーカーチップ) ・景品 ・おしごとカード ・財布の材料(折り紙、色紙、クレヨン、マーカーなど) ・ホワイトボード ・ホワイトボードマーカー <p>【事前準備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが園内で安全に行える仕事の候補を3～4種類ほど考えておく。①A賞(自由画帳)とB賞の景品(折り紙キラキラシールセット) ・特にB賞は、子どもたちにとって魅力的なものにする。 ・前回、一人一人がもらった模擬通貨の枚数をホワイトボードに記載しておく。 ・交換のルールを大きく分かりやすくホワイトボードに記載しておく。①財布の製作方法を提示できるように準備しておく。 ・財布のデザインや色、形は子どもたち自身が選べるよう、多様な材料を用意する。

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
<p>・お金を管理する入れ物には何があるか、子ども達にクイズを出し財布製作の導入をする。財布を折り紙で折った後に、A賞(自由画帳)、B賞(折り紙キラキラシールセット)の説明をする。お金を使うか、貯めるかを決められるよう話しをする。お金を貯めたことや使ったことの難しさを発表し合う。</p>	<p>【子どもの姿・声】 「私はキラキラシールセットがいい」、「ぼくも」とB賞に惹かれる子ども達の声が沢山聞かれた。また、稼いだお金で変えないことが分かると何故買えないのか、どうしたら手に入れられるか考える姿が見られた。</p> <p>【保育者との関わり】 子ども達がA賞、B賞どちらを選んでも、子ども達の気持ちを尊重し、お金の使い方に責任を持てるよう関わりを持った。また、本当に欲しいものはどちらの賞なのか考え合うことで欲しい物とお金の大切さに気付けるようにした。</p>

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
<p>価格が違うA賞とB賞を設定するとどちらの賞が現実的に購入できるのか、いくらお金が足りないのか友達とお金を数え合い、知ろうとする姿が見られた。高い買い物程、お金を貯めたり沢山働いて稼がないといけないなど言葉が聞かれ、お金の使い方に悩んでいた。</p>	<p>お金をたくさん稼ぐことの先に、もっと楽しいことがあると分かる中で、意欲的になる子、やっぱり仕事はしたくない子と今持っている自分のお金の数を毎回数える子など、個々のお金に対する関わりも見える時間だった。稼いだ先の楽しみを、子どもたちの興味関心にいかに合わせていくかも工夫していて楽しい体験になっていると感じる。</p>

実施クラス	実施日	実施保育者名
3・4・5 歳児 ほし、にじ、そら 組	2 月 26 日 (木)	本郷

● 実施計画

活動テーマ	
おかね ～おかねの使い方を考えよう～ ねだんをくらべてみよう	
活動テーマに関する 日頃の興味関心について	
日常の買い物において、同じ種類のものでもお店によって値段が違うことがあるということに、徐々に関心が向き始めている。	
活動スケジュール	環境設定 ・ 準備物
時間	内容
10:00～10:10	<ul style="list-style-type: none"> ・「同じものでも値段が違うものを見たことがあるかな?」と問いかけ、意見をまとめる。 ・同じ商品でも値段が違う理由や、値段を比べて何を買うか考えることを伝える。
10:10～10:30	<ul style="list-style-type: none"> ・2つの価格帯(高い・安い)で商品カードを提示し、値段の違いを観察する。 ・なぜ同じものでも値段が違うのかを、グループで話し合う。 ・予算を500円と設定し、値段を比較しながら何を買うかグループで決める。
10:30～10:40	<ul style="list-style-type: none"> ・決めた商品と、なぜそれを選んだか(値段、品質、量など)の理由を発表する。 ・他のグループの発表を聞いて、気づいたことや感じたことを発表する。

【環境設定】

- ・子どもたちが自由に発言できる雰囲気を作り、一人ひとりの意見を尊重し、受け止める。
- ・正解・不正解を明らかにするのではなく、多様な捉え方や考える姿勢・態度を大切にす。

【活動使用教材】

- ・商品カード(同じ種類で値段が異なるもの)
- ・値札
- ・ホワイトボード
- ・ホワイトボードマーカー

【事前準備】

- ・商品カードを作成し、同じ商品でも値段が異なる理由(例:品質、量、お店の場所など)を考えさせるヒントを用意しておく。
- ・グループで話し合いができるよう、商品カードや模擬貨幣を配布しやすく準備しておく。

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
<p>商品に値段をつけ、どちらの商品が安い、高いか子どもに聞く。値段が変わっても欲しい物は変わらないか意見を聞く。また、予算を500円に設定したときに商品を購入するかどうかディスカッションをする。</p>	<p>【子どもの姿・声】 値段が分かると、「なんでこれは高いの」と保育者に聞く姿が見られた。「こっちの方が安い」と値段と商品を比べ合う姿が見られた。</p> <p>【保育者との関わり】 「どうしてそう思ったのかな？」と問いかけ、子ども達が自由に意見を出せるようにした。また、商品を500円に設定したときにどう感じたか丁寧に聞くことで意見を出しやすいようにした。</p>

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
<p>子ども達なりに値段と商品を見比べ、本当に欲しい物かどうか高いか安いかわだの意見を参考にしながら考え合う姿が見られた。また、何故その商品を選んだのか聞くと「今欲しいと思ったから」や「安かったから」など物と値段の価値を考えるような声が聞かれた。</p>	<p>買い物する中で、商品価値への不思議や気づき、自分の心の声を聴く事、友達に相談することなど目に見えない葛藤や試行錯誤を体験できた取り組みだった。本当に欲しいのか、買いたいから買うのかなど、大人も考えさせられる体験だったと感じる。</p>

実施クラス	実施日	実施保育者名
3・4・5 歳児 ほし、にじ、そら 組	2 月 27 日 (金)	本郷

● 実施計画

活動テーマ	
おかね ～おかねの使い方を考えよう～ おしごとをかんがえてみよう	
活動テーマに関する 日頃の興味関心について	
<p>前回、園内で出来るお仕事は何か、考えを出し合い実際にお仕事をしてお金が貰えることが分かって段々と増えていくお金に「こんなに集まったよ」と達成感を感じる姿が見られた。また、お金を得たことでお金持ちになったらという物語を作ったり、ままごとで表現する様子が見られ、友達に共有する姿がある。意見交換や感じた事を伝え合う楽しさを感じている。</p>	
活動スケジュール	環境設定 ・ 準備物
時間	内容
10:00～10:10	<ul style="list-style-type: none"> ・1月の活動を振り返り、働くことと、その対価としてお金を得た経験を思い出す。 ・「自分がやってみたいおしごとは何かな?」「そのおしごとはどんなことをするのかな?」など問いかけ、意見をまとめる。 ・自分たちでやってみたい仕事を考える。
10:10～10:30	<ul style="list-style-type: none"> ・おしごとの内容や看板作り、金額の設定を決める。 ・意見の内容を計画書に書く。
10:30～10:40	<ul style="list-style-type: none"> ・完成したおしごとの計画について発表する。 ・他友達の発表を聞いて、気づいたことや感じたことを発表する。

【環境設定】

- ・子どもたちが自由に発言できる雰囲気を作り、一人ひとりの意見を尊重し、受け止める。
- ・正解・不正解を明らかにするのではなく、多様な捉え方や考える姿勢・態度を大切にすること。

【活動使用教材】

- ・計画書用の紙(模造紙など)
- ・筆記用具(マーカー、色鉛筆、クレヨンなど)
- ・ホワイトボード
- ・ホワイトボードマーカー

【事前準備】

- ・子どもたちの発想を広げるために、多様なジャンルのお店(食べ物、遊び、サービスなど)の具体例を写真などで用意しておく。

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
<p>導入では園内のお仕事にはどんな仕事があったか前回の振り返りをし、お仕事の内容を子ども達が話し合えるようにした。その後こんな仕事があったらいいなという自分で考えた仕事のポスターを作ることによって仕事が社会の貢献に繋がり、貢献による対価としてお金を貰うことを理解出来るように活動を行った。様々な仕事の内容やアイデアが聞かれ、友達に仕事を紹介したり自分の仕事を発表したりすることで働くこととお金を得る楽しさを感じることができた。</p>	<p>【子どもの姿・声】 どんなしごとがあるか保育者が質問をすると、「机拭きやおもちゃのお片付け」といった前回のコンテンツで実践した仕事内容を挙げる姿が見られた。それぞれ、やってみたい仕事をポスターにすると、周りの友達や職員に宣伝をする姿も見られた。</p> <p>【保育者との関わり】 子ども達の自由な発想を受け止め、仕事の内容や金額設定を受け止め、発表出来るよう関わることで友達の仕事を聞く姿が見られた。また、社会貢献とお金の関係を結び付けられるよう分かりやすく話をすることでより、仕事に興味を持てるようにした。</p>

● 振り返り

保育者側の気づき	園長からの感想・助言内容
<p>活動を始めた時には「お金ちょうだい」という言葉が多く聞かれたが、仕事をすることで助かる人がいる事や誰かの為になる話をするとお金がもらえる嬉しさよりも仕事の内容に興味を持つ子ども達の姿があることに気付いた。また、仕事についてやらなくてはいけないものという理解に結びつかないよう、社会貢献という話を簡単にすることで、仕事をするとお金がもらえ、欲しい物がもらえるという仕組みを丁寧に伝えた。すると、自分たちでポスターを作る時に相手の気持ちを考えて仕事内容を考え作る姿に繋がったことに気付いた。</p>	<p>活動中での気づきや自分の発言を受け止められること、共有と共感の成長と共に、誰かの役に立つ喜びと「ありがとう」の言葉をもらう嬉しさを感じられた取り組みだったと思います。手作りの仕事依頼ポスターも個々の個性が出ており、「お金ほしいから仕事したい」から「小さい子を寝かしてあげたい」など一人ひとりの思いや表現する言葉の成長も感じました。仕事を依頼する方法や、ポスター制作など子どもたちと共に試行錯誤し楽しんでいる先生の熱量も子どもたちに伝わったと思います。子どもと一緒に楽しむ事をこれからも大切にしていきたいと思います。</p>